

— 雜 錄 —
モヨの学名

東京灣の北部で、マハゼ釣りの感んな場所でいわゆるハゼ釣の外道として、モヨと一般に呼んでいる魚がよく釣れる。外觀は黒ずんだ地味な色で、ぼんやりした黒斑が、体側に二つ、頭部に數個ある。背ビレⅩ皿、12、尻ビレⅢ、7、有孔鱗43~46、口蓋骨に歯があり、どの顎骨にも鱗がない。兩眼間はわりと平坦で、頭蓋骨の棘もわりと隆起していない。特徴的なのは眼前骨の下縁に、ほぼ三個の平面的な棘が下方を向いて出していることである。

モヨという魚の名は、田中茂穂先生の擔當された有用有害觀賞水產動植物圖說(昭和8年) p. 250 に和名として載つており、*Sebastichthys elegans* (STEINDACHNER & DODERLEIN) の學名が與えられ、三崎でいうキミカサゴと同一のものとして取扱われている。

上記の東京灣北部で近年釣れているモヨは、いろいろな点で、この田中, JORDAN and STARKS (Proc. U. S. Nat. Mus. Vol. 27, p. 118) の *S. elegans* と異つてゐる。眼前骨の下方にある棘は立派に發達して3個ほどあること(前者では2個の突起にすぎぬ)、有孔鱗が43~45もあること、(前者では30) 体高の低いこと、斑紋が似てはいるが異なること、その他である。

これは、どうしても *Sebastichthys schlegeli* (Hilgendorf) (= *Sebastodes fuscescens* (HOUTTUYN)) で、和名クロイソと考えられる。(JORDAN & STARKS, (前記) 田中(昭. 8. 圖說)、松原(昭. 3. 検索表) とわりとよく合う)。

モヨという名は、釣人によつて不注意に使われてゐるから、昭和の初期には東京灣でとれたモヨは三崎でとれるキミカサゴと同じものであつたかもしだれぬし、また、東京灣の南部ではキミカサゴをいつてゐかもしだれぬ。しかし、今日のハゼ釣の外道としてのモヨは、クロイソか、またはこれに近いものである。(兩者を數多く検する機會のないまゝ、クロイソと同じか否かの正確な判定は後日に譲らざるを得ない) JORDAN and SNYDER (1901) の圖を、松原氏が検索表(昭和13年)に載せたものと比べると、よく似てゐるが、ただ、斑紋がこの圖ではなく、一様に黒いが、標本は、キミカサゴによく似た斑紋がある。(但し細部では異つてゐるし、これほど判然としない。)

こゝに、東京灣のモヨは、一應、*Sebastichthys schlegeli* の學名をつかつたほうがよいとの意見をのべ、識者の批判を乞いたく、さらにクロソイとの異同についての將來の研究問題を提起したい。

(東大農學部 檜山義夫)

- 日本水產學會昭和26年度年次大會(昭26.5.6,7)に於て發表された魚類に関する報告: 濱田隆吉: 網走湖產公魚と網走河に出現する公魚及び二、三の地方の公魚について — 渡部正雄: カマキリの鱗について — 熊田頭四郎: 鰐に關する二、三の知見 — 菊川満・小林博: ウミタナゴ胎兒の生殖孔附近の組織所見について — 石山禮造: 日本近海ガングエヒ科魚類の研究(第5報) 屬の分類について — 勝木保次・吉野鎮夫: 魚類側線器の形態と機能について — 平松達男: 東支那海產ムシガレイの資源的考察(第2報) 耳石から推定した魚体の成長について — 川村久明: 東對馬水道に於ける稚魚の季節的出現傾向 — 塚原博: 矢部川の魚類相の群衆生態的研究(第4報) 生態と体形との關係について — 落合明: ニギスの生態學的研究(第1報) 肥滿度 — 丹下平: 霞ヶ浦に於けるワカサギの標識放流經路について — 松井魁・網尾勝: ニシログチの年令査定の年令組成、殘存率について — 福島信一: サンマの資源學的研究(第1報) 東北海區に於ける年令群洄游の追跡 — 安田秀明: 輪紋長の度數分布から見たヒラメ・イトヨリの輪紋の顯われ方について — 岡田彌一郎・鈴木清: 日本產サギフェ科魚類の再査 — 小林茂雄・山中勇太郎: ピニロンによる魚類の標識方法(予報) — 日下部台次郎: 稚魚の採集と染色の新しい方法 — 山中勇太郎・小林茂雄: 長崎湖產イサザの生態に關する研究(第1報) 畫面による垂直移動 — 川崎健: カツオの資源學的研究(第1報) 東北海區に來遊するカツオの Population に就て — 笠原康平: 東北海區に於けるマガレイの資源的研究 — 畠中正志・開野清成・大塚章: 仙台灣底曳魚類の資源學的研究(第2報) イシガレイの年令成長産卵について — 大内明: 鱗による鮭の年令査の研究 — 石川昌・八雲剛・笠原正五郎: スズキ當才魚の池沼放養に關する研究(第1報) — 松井魁: 本邦產真鯛の第二次産卵と孕卵數との關係について — 斎藤三郎: 岩山排水の鮭卵發生並に稚魚への作用 — 稲葉傳三郎: 鮓類の品種改良とカリマスの交配種について — 濱野繁: 魚卵の賦活について — 山根謹爾: フォルマリン固定による魚体の伸縮の研究 — 佐藤信一: 函館近海のホツケ属について — 今井貞彦: カウリトビウオの生活史
- 日本動物學會關東支部第三回大會(昭26.4.29)に發表された魚類に関する報告: 加藤光治郎: 海水飼育金魚の黒化現象 — 江上信雄: メダカ臀鰭の鱗條數に關係する遺傳學的環境的諸要因(予報) — 高橋敬三: 魚類の天然色保存法 — 高木和德: シビレエイ亞科の新種ネムリシビレエイ — 勝木保次・吉野鎮夫: 魚類側線系の構造
- 日本生物地理學會總會(昭26.5.27)に魚に關する發表: 渡部正雄: 日本產カジカ科魚類の分布(第二報) (岡田彌一郎)